

中学 2 年で学ぶ

$y = x + b$ は

$y = x$ を b だけ上へ平行移動したのだから
傾きは変わらない。

$\frac{y \text{ の増えた量}}{x \text{ の増えた量}}$ を見ていくと、

x が 1 増えると

y も 1 増えるから

$\frac{y \text{ の増えた量}}{x \text{ の増えた量}}$ のその値は 1

X が 2 増えると y も 2 増えるから $\frac{y \text{ の増えた量}}{x \text{ の増えた量}}$ の値は 1

X が 3 増えると y も 3 増えるから $\frac{y \text{ の増えた量}}{x \text{ の増えた量}}$ の値は 1

傾きは 1 である、が名称が変わる。

$\frac{y \text{ の増えた量}}{x \text{ の増えた量}}$ を **変化の割合** と名付ける。

$$y = 2x + b$$

x が 1 増えると y が 2 増える。

$$\text{変化の割合} = \frac{y \text{ の増えた量}}{x \text{ の増えた量}} = \frac{2}{1} = 2$$

$$y = 3x + b$$

X が 1 増える y が 3 増える。

$$\text{変化の割合} = \frac{y \text{ の増えた量}}{x \text{ の増えた量}} = \frac{3}{1} = 3$$

$$y = ax + b$$

y が 1 増えると y が a 増える。

$$\text{変化の割合} = \frac{y \text{ の増えた量}}{x \text{ の増えた量}} = \frac{a}{1} = a$$

以後、教科書は**変化の割合**という用語で語られる。

そして、**変化の割合**という用語が

$$\frac{y \text{ の増えた量}}{x \text{ の増えた量}} \quad \text{由来であることを忘れて、}$$

? となっていく。

数学は、用語の元の約束を忘れると

訳の分からない道に迷い込むことになる。